薬学部

卒業認定・学位授与の方針　DP（ディプロマ・ポリシー）

◆人材育成の目的・学位授与の方針

薬学部は、「薬学は医療を通じて人類の健康に貢献する総合科学である」との理念の下に、教養教育で身に付けた幅広い分野の知識を素地とし、専門教育において薬剤師の職能、医薬品の創製・保健衛生に関わる基本知識、及び生命科学を基盤とする高度の“薬学的”思考力と倫理観を身に付け、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程を学修し、所定の単位を修得した者に本学部の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針　CP（カリキュラム・ポリシー）

学生がディプロマ・ポリシーに掲げた目標に到達するため、以下の方針によりカリキュラムを編成します。

①教育課程の編成方針

教養教育では多様な分野にふれ、より深く豊かな教養を身に付けることができるように幅広い科目を活用し専門教育で学ばない領域の履修を推奨します。専門教育では、低学年次で基礎科学的課目を学修し、徐々に薬学的応用科目へと遷移し、高学年次では高度な薬学的実践科目が学修できるように編成しています。さらに、3 年次より研究室配属を行い、個々の特性に応じた高度な学修が可能です。

②教育課程における教育・学習方法に関する方針

教育目標への到達に適した学修方法として、アクティブラーニング、スモールグループディスカッション、オンライン学習を取り入れた講義、演習や実習、研究室における長期課題研究等を行います。講義においては知識の理解と定着を行い、演習や実習では知識の活用と主体的な思考力を涵養します。研究室における研究では論理的思考力を向上させるとともに課題解決能力及び研究の実践力を身に付けます。

③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通した学修成果の達成状況を測定・評価します。

全ての開講科目について、それぞれの学修目標の到達度を適正に評価するための方法及び基準を定め、これをシラバスに明記して学生に周知します。学修成果は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から「評価方法・基準」により厳格かつ公正に評価します。

入学者受入れの方針　AP（アドミッション・ポリシー）

◆求める学生像

薬学部では、″薬学は医薬を通して人類の健康に貢献する総合科学である″との理念のもと、医薬品の創製・生産・管理、環境・保健衛生及び薬剤師の職務等に関わる基礎知識を習得させ、生命科学を基礎とする高度な創薬・育薬研究能力と倫理観を備えた創造性豊かな人材を育成することを目指しています。将来の薬学を担う人材を育成するため、本学部では次のような人を求めています。

1. ″くすり″に関わる職業に魅力を感じ、自らその仕事に携わりたいという希望や意欲を有する人
2. 困難を克服する精神力や生命に対する倫理観、マナーを育んでいける人
3. 高等学校までの履修科目の基礎事項を理解し、その上で、化学、物理、生物の一つあるいは複数の科目にお

いて特に優れた力を有する人

4. 情報収集、情報発信、コミュニケーションの手段としての情報科学や外国語能力の向上のための努力を持続できる人
5. 高等学校までにクラブ活動、生徒会活動およびボランティア活動など様々な活動に参加したり、あるいは自らの目標や考えの基に何かに取り組んだり、趣味を楽しんだりした経験を有する人
6. 学部卒業後は、薬学の様々な領域で指導的立場に立って社会に貢献しようという意欲を有する人。特に、学校推薦型選抜Ⅱにおいては大学院に進学して博士号を取得し、将来、創薬や医療等の薬学の様々な領域で指導的立場に立って社会に貢献しようという強い意欲を有する人を求めます。

◆入学者選抜の基本方針

高等学校までの教育課程を踏まえ、基礎的知識（基礎学力）・論理的思考力・判断力・表現力等を評価します。また、入学後のカリキュラムを考慮して、高等学校においては、理科（物理・生物のいずれか及び化学）、数学、外国語（英語）、国語、地理歴史・公民を習得していることを望みます。

学校推薦型選抜Ⅱでは、「知識・技能」については、大学入学共通テストを利用して高等学校の教育課程の教科・科目に関する総合的な基礎学力を判定します。また、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については推薦書、調査書、志望理由書及び面接により判定し、それらの判定結果から入学者を選抜します。（詳細は入学者選抜要項、募集要項を参照）

一般選抜（前期日程）では、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等の能力」 については、大学入学共通テストを利用して高等学校の教育課程の教科・科目に関する基礎的・総合的な学力・能力を、個別学力検査により、入学後の学習により密接にかかわる教科・科目についてより深く学力・能力を判定します。また「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については調査書及び面接により評価し、それらの結果から入学者を選抜します。（詳細は入学者選抜要項、募集要項を参照）

総合型選抜Ⅰ（私費外国人留学生入試）では、個別学力検査、面接を課し、書面審査では日本学生支援機構が実施する日本留学試験を評価します。個別学力検査では数学、理科、外国語（英語）の３教科を課し、基礎学力・論理的思考力等を、面接では志望動機、学習意欲及び日本語能力等を評価します。（詳細は入学者選抜要項、募集要項を参照）

薬学部　薬学科

卒業認定・学位授与の方針　DP（ディプロマ・ポリシー）

◆人材育成の目的・学位授与の方針

高度化する医療において薬物治療の指導者、及び疾病の予防及び治療に貢献する人材を目指し、豊かな人間性、柔軟な社会性、医療における倫理観をもち、医療系薬学及び衛生・社会系薬学を中心とした応用的学問を身に付け、以下に示す学修成果を達成すべく編成された教育課程を学修し、所定の単位を修得した者に学士（薬学）の学位を授与します。

学修成果

豊かな教養

- 言語、歴史などの知識を踏まえて、外国と日本の文化について理解し比較することができる。
- 英語による日常会話での質疑応答ができる。

確かな専門性

- 化学、物理、生物に関する基本的事項を理解し説明できる。
- 製剤、薬剤、薬物治療に関する基本的事項を理解し説明できる。
- 数学・統計学に関する基本的知識を修得し、それらを薬学領域で応用できる。
- 病院と薬局での薬剤師業務の概要と社会的使命を理解し実践できる。
- 医療および薬事関係法規に関する基本的事項を理解し、それらを遵守できる。

創造的な知性

- 薬学的視点に基づき、研究活動に必要な基本的知識を踏まえて、研究課題の解決に向けた研究プロセスを理解し実践できる。

社会的な実践力

- 生命に関わる職業人にふさわしい行動・態度をとることができる。
- 調剤、服薬指導、処方提案等の薬学的管理を通じて、薬物治療を実施・評価できる。
- 地球環境保護活動により地球環境を守る重要性を自らの言葉で表現できる。

グローバルな視野

- 日本の国際社会における位置づけを、政治、経済、地理などの観点から説明できる。
- 学術誌・雑誌・新聞の読解、および医療現場・学術会議などでの情報伝達・収集に必要とされる実用的英語を利用できる。

情報通信技術の活用力

- コンピューターやインターネットの利用法を理解し、情報通信技術に関する倫理・法律等を遵守して情報の収集・発信ができる。

汎用的な知力

- 患者・生活者等の心理や立場に配慮し、適切なコミュニケーションを図ることができる。
- プレゼンテーションにより、情報・意志の伝達を行うことができる。

教育課程編成・実施の方針　CP（カリキュラム・ポリシー）

学生がディプロマ・ポリシーに掲げた目標に到達するため、以下の方針によりカリキュラムを編成します。

①教育課程の編成方針

教養教育では多様な分野にふれ、より深く豊かな教養を身につけることができるように幅広い科目を活用し専門教育で学ばない領域の履修を推奨します。専門教育では、低学年次で基礎科学的課目を学修し、徐々に薬学的

応用科目へと遷移し、高学年次では医療薬学的実践科目が学修できるように編成しています。さらに、５年次に薬剤師実務の学修のための長期実習を実施するだけでなく、３年次より研究室配属を行い、研究マインドと高度な論理的思考力の修得も可能なように編成しています。

②教育課程における教育・学習方法に関する方針

教育目標への到達に適した学修方法として、アクティブラーニング、スモールグループディスカッション、オンライン学習を取り入れた講義、演習や実習、研究室における長期課題研究等を行います。講義においては知識の理解と定着を行い、演習や実習では知識の活用と主体的な思考力を涵養します。研究室における研究では論理的思考力を向上させるとともに課題解決能力及び研究の実践力を身に付けます。

③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通した学修成果の達成状況を測定・評価します。

全ての開講科目について、それぞれの学修目標の到達度を適正に評価するための方法及び基準を定め、これをシラバスに明記して学生に周知します。学修成果は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から「評価方法・基準」により厳格かつ公正に評価します。

入学者受入れの方針　AP（アドミッション・ポリシー）

◆求める学生像

薬学部の理念・目標に基づき臨床に関わる薬学を担う人材を育成するため、薬学部の方針に加え、薬学科では次のような人を求めています。

1. ″薬剤師″という職業に魅力を感じ、卒業後は医療や臨床薬学研究など様々な薬学領域で指導的立場に立って社会に貢献しようという意欲を有する人
2. 薬剤師として患者様の気持ちや考えを理解できるように人間愛や倫理観、協調性を育んでいける人

◆入学者選抜の基本方針

高等学校までの教育課程を踏まえ、基礎的知識（基礎学力）・論理的思考力・判断力・表現力等を評価します。また、入学後のカリキュラムを考慮して、高等学校においては、理科（物理・生物のいずれか及び化学）、数学、外国語（英語）、国語、地理歴史・公民を習得していることを望みます。

学校推薦型選抜Ⅱでは、「知識・技能」については、大学入学共通テストを利用して高等学校の教育課程の教科・科目に関する総合的な基礎学力を判定します。また、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については推薦書、調査書、志望理由書及び面接により判定し、それらの判定結果から入学者を選抜します。（詳細は入学者選抜要項、募集要項を参照）

一般選抜（前期日程）では、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等の能力」 については、大学入学共通テストを利用して高等学校の教育課程の教科・科目に関する基礎的・総合的な学力・能力を、個別学力検査により、入学後の学習により密接にかかわる教科・科目についてより深く学力・能力を判定します。また「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については調査書及び面接により評価し、それらの結果から入学者を選抜します。（詳細は入学者選抜要項、募集要項を参照）

総合型選抜Ⅰ（私費外国人留学生入試）では、個別学力検査、面接を課し、書面審査では日本学生支援機構が実施する日本留学試験を評価します。個別学力検査では数学、理科、外国語（英語） の３教科を課し、基礎学力・論理的思考力等を、面接では志望動機、学習意欲及び日本語能力等を評価します。（詳細は入学者選抜要項、募集要項を参照）

薬学部　創薬・生命薬科学科

卒業認定・学位授与の方針　DP（ディプロマ・ポリシー）

◆人材育成の目的・学位授与の方針

創薬科学や生命薬科学分野の研究に寄与できる人材を目指し、独創的な発想力、探求心、創薬マインドを持ち、物理系薬学、化学系薬学、生物系薬学を中心とした広い知識を身に付け、以下に示す学修成果を達成すべく編成された教育課程を学修し、所定の単位を修得した者に学士（創薬科学）または学士（生命薬科学）の学位を授与します。

学修成果

豊かな教養

- 言語、歴史などの知識を踏まえて、外国と日本の文化について理解し比較することができる。
- 英語による日常会話での質疑応答ができる。

確かな専門性

- 化学、物理、生物に関する基本的事項を理解し説明できる。
- 製剤、薬剤、薬物治療に関する基本的事項を理解し説明できる。
- 数学・統計学に関する基本的知識を修得し、それらを薬学領域で応用できる。
- 医薬品創製と製造の各プロセスに関する基本的事項を理解し説明できる。
- ゲノム情報の利用に関する基本的事項を理解し説明できる。
- 医療および薬事関係法規に関する基本的事項を理解し、それらを遵守できる。

創造的な知性

- 薬学的視点に基づき、研究活動に必要な基本的知識を踏まえて、研究課題の解決に向けた研究プロセスを理解し実践できる。

社会的な実践力

- 生命に関わる職業人にふさわしい行動・態度をとることができる。
- 地球環境保護活動により地球環境を守る重要性を自らの言葉で表現できる。

グローバルな視野

- 日本の国際社会における位置づけを、政治、経済、地理などの観点から説明できる。
- 学術誌・雑誌・新聞の読解、および医療現場・学術会議などでの情報伝達・収集に必要とされる実用的英語を利用できる。

情報通信技術の活用力

- コンピューターやインターネットの利用法を理解し、情報通信技術に関する倫理・法律等を遵守して情報の収集・発信ができる。

汎用的な知力

- プレゼンテーションにより、情報・意志の伝達を行うことができる。

教育課程編成・実施の方針　CP（カリキュラム・ポリシー）

学生がディプロマ・ポリシーに掲げた目標に到達するため、以下の方針によりカリキュラムを編成します。

①教育課程の編成方針

教養教育では多様な分野にふれ、より深く豊かな教養を身につけることができるように幅広い科目を活用し専門教育で学ばない領域の履修を推奨します。専門教育では、低学年次で基礎科学的課目を学修し、徐々に薬学的応用科目へと遷移し、高学年次では研究室での特別実習により最先端の研究成果にふれることができるように編

成しています。さらに、３年次より研究室配属を行い、レベルの高い研究活動体験が可能なように編成している一方で、医療現場での薬剤師の役割、医薬品の使われ方を理解した上で創薬科学を理解出来るように配慮しています。

②教育課程における教育・学習方法に関する方針

教育目標への到達に適した学修方法として、アクティブラーニング、スモールグループディスカッション、オンライン学習を取り入れた講義、演習や実習、研究室における長期課題研究等を行います。講義においては知識の理解と定着を行い、演習や実習では知識の活用と主体的な思考力を涵養します。研究室における研究では論理的思考力を向上させるとともに課題解決能力及び研究の実践力を身に付けます。

③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通した学修成果の達成状況を測定・評価します。

全ての開講科目について、それぞれの学修目標の到達度を適正に評価するための方法及び基準を定め、これをシラバスに明記して学生に周知します。学修成果は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から「評価方法・基準」により厳格かつ公正に評価します。

入学者受入れの方針　AP（アドミッション・ポリシー）

◆求める学生像

学部の理念・目標に基づき創薬や育薬に関わる薬学を担う人材を育成するため、薬学部の方針に加え、創薬・生命薬科学科では次のような人を求めています。

1. ″研究″や″開発″に魅力を感じ、卒業後は創薬・育薬や生命薬科学を通して社会に貢献しようという意欲を有する人
2. 研究者、開発者としての倫理観や困難を克服する精神力と体力を育んでいける人

◆入学者選抜の基本方針

高等学校までの教育課程を踏まえ、基礎的知識（基礎学力）・論理的思考力・判断力・表現力等を評価します。また、入学後のカリキュラムを考慮して、高等学校においては、理科（物理・生物のいずれか及び化学）、数学、外国語（英語）、国語、地理歴史・公民を習得していることを望みます。

学校推薦型選抜Ⅱでは、「知識・技能」については、大学入学共通テストを利用して高等学校の教育課程の教科・科目に関する総合的な基礎学力を判定します。また、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については推薦書、調査書、志望理由書及び面接により判定し、それらの判定結果から入学者を選抜します。（詳細は入学者選抜要項、募集要項を参照）

一般選抜（前期日程）では、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等の能力」 については、大学入学共通テストを利用して高等学校の教育課程の教科・科目に関する基礎的・総合的な学力・能力を、個別学力検査により、入学後の学習により密接にかかわる教科・科目についてより深く学力・能力を判定します。また「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については調査書及び面接により評価し、それらの結果から入学者を選抜します。（詳細は入学者選抜要項、募集要項を参照）

総合型選抜Ⅰ（私費外国人留学生入試）では、個別学力検査、面接を課し、書面審査では日本学生支援機構が実施する日本留学試験を評価します。個別学力検査では数学、理科、外国語（英語） の３教科を課し、基礎学力・論理的思考力等を、面接では志望動機、学習意欲及び日本語能力等を評価します。（詳細は入学者選抜要項、募集要項を参照）